

令和5年 檀原市

# 二十歳のつどい 祝辞



輝かしい令和5年の新春に、「檀原市二十歳のつどい」にご参加されている皆さん、本当におめでとうございます。また今日まで深い愛情を注いでこられたご家族や地域の方々、そして背中を支えてこられた友人や恩師の皆さんに敬意を表し、心からお慶びを申し上げます。

さて、「成人」とは、心身ともに十分に成長した人のことを指します。一人前の「大人」として社会的にも認知されます。「成人」になると、単独で契約締結ができるなど、新たな権利が得られる一方で、親権に服さなくなることで、自らが大人としての義務と責任を負わなければなりません。言い換えれば、「自分のことは自分で考え、自分の足で歩いていく」ということです。

しかし皆さんの中学、高校時代を思い返してください。自分が「この髪型がカッコ良い！」と思っても校則で縛られ、自分が「このアクセサリが可愛い！」と思っても生徒指導の先生に怒られ、自分が「この進路を目指したい！」と思っても学校の三者面談で否定されたことはありませんでしたか。これまでの人生は、敷かれたレールの上から外れないことを良しとされてきたにも関わらず、学校を卒業し、成人を迎えた瞬間に、「義務と責任を持って自分の道を生きろ」と皆さんは言われます。

この理不尽で、相反する事実を皆さんはどのように感じるのでしょうか。「おかしい！」なのか、「そんなもんじゃない？」なのか、「何にも思わない」なのか、確かな答えはありませんが、大切なことは自分の答えを持つことです。

「大人になる」、「自分の道を生きる」とは、正解のない問いに自分の答えを持つことだと思います。だからこそどうか、自分が正しいと思った時には胸を張って前に進んで、自分が違うと思った時には勇気を出して声を上げてください。自分を大切にして、あなたの一番の味方はあなた自身でいてあげてください。

一方で、自分と異なる意見を尊重することも忘れないでください。自分が世界に一人しかいないのと同様に、目の前にいる誰かも世界でたった一人の誰かです。地球の裏側まで、とは言いません。あなたのすぐそばにいる、手の届く人を大切にするのを忘れないでください。

結びになりますが、ここにおられるあなた達が、時に理不尽で、時に矛盾に溢れるこの社会の中で、自分の答えを持って、自分の道を歩み、自分の目の前の人を大切にして、そして何より、自分の人生を存分に楽しんでくれることを心から祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉といたします。

本日は、本当におめでとうございます。

令和5年1月9日

檀原市議会副議長 うすい卓也

